

世界に目を向けよう ～わたしたちにもできること～

学校所在府県：京都府

学校名：京都市立桂川小学校

名前：上田 雅也

実践教科：総合的な学習の時間

指導時数：12 時間

対象学年：小学 6 年生（4 クラス）

対象人数：140 人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

ブラジルの人たちには、貧しさを一見感じさせないような優しくあたたかい笑顔、ゆったりとのびのびした生活があった。そして日系移民の方たちのように逆境に負けずに努力してきた人たちとそれを一所懸命に学ぼうとしてきたブラジル人たちの姿勢があった。さらに 360 度地平線という広大な大地がブラジルには存在する。これらからブラジルの秘めたものすごいパワーを感じた。この可能性を国全体の発展に繋げていくためには、やはり教育が大事だと強く感じた。デモを起こして訴えていた教育の大事さは、医療と共に本当に必要とされている課題であるように実感した。私たちが訪問したような私立学校に通わせるだけの余裕が無い生活状況におかれている貧困層が多いということから、やはり公立の教育の質をもっと高める取り組みがなされるべきだ。

そうした環境に生きるブラジルの子どもたちは堂々と夢を語る。日本では子どもたちの前で胸を張って大きな声で言えず、どこか上辺だけになっていた言葉が、ブラジルの方たちからははっきりと聞くことができた。「デッカイ夢をもて。」これをブラジルの方たちから日本の子どもたちへのメッセージとして、しっかりと伝えようと思う。

7 月中旬の新聞記事に、安倍首相がブラジルに対して、港や鉄道の整備の支援を行う約束をする旨が書かれていた。ブラジルのことを思っていることだと思いながら読むと、結局それが日本に輸入する際の価格を下げることにつながるとのことだった。国として行う「政治」はそうあるべきなのだと思う。でも私たちの携わっている「教育」は少し違って「人づくり」だと思っている。

今の日本で私たち教師は何をすべきなのか・・・流れに任せていてもある程度のレベルでは生きていける時代にいる子どもたち。彼らにこそ、「自力で強く生きる力」や「国際社会で他国の人たちとも対等な関係で協力して生きる力」を身に付けさせるために、様々なアプローチの仕方であげかけていく必要があるということも、今回の研修を通して学べた大きなことの一つであった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

途上国の人々のために自分たちに何ができるのか…これを世界中で考え合って行動に移していくことが、世界中の人々が幸せに暮らせることに繋がっていくと信じている。地球の反対側の途上国のことを、日本に暮らす子どもたちが考えていくことは簡単ではない。しかし、地球の反対側であろうと、「人のことを真剣に考え、その人のために自分には何ができるのか」ということにおいては、日本の教室内のクラスメイトのことを考えることと何も変わらない。そう思うとブラジルの人たちの抱える課題がものすごく身近なことに思えてきた。「途上国を理解しようとする」とはつまり「人を理解しようとする」とである。

そう考えた時、まずはこの日本はいったいどうなのか。ゴミのポイ捨て、信号無視、違法駐車、落書き・・・ブラジルで目に着いたことは、量や規模は違って日本でも見られることであった。日本人もブラジル人も同じ人間であることに違いは無い。人として大事な部分を教える「教育」は、私たちと同じ人間に対する働きかけである以上、やはりどこの国であっても必要な内容については変わらない。

これらの背景に対して決して「上から目線」になってはいけない。日本の国にも、日本の子どもたちにも、解決しなければならない課題は山積みである。東日本大震災を通して考えた時のように、他人事で終わることなく、いかに自分事の問題として子どもたちに考えることができるような気持ちや態度を養うことが今回の実践における目的であり、同時に指導者としての一番の課題であった。

「教室はみんなが近い将来飛び出していく社会の縮図だ」と話している。今回の実践を通して、小学校卒業を迎える 6 年生の子どもたちが、クラスの友だち一人一人をさらに大切に考え思いやることのできる態度を身に付けてほしいと願っている。その姿勢こそが、将来世界に目を向けた時にも必ず生かされることに気付かせたい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 貿易ゲームをしよう * 世界には色々な国があることを知り、それぞれのつながりについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 貿易ゲームのルールを知り、貿易ゲームを行う。 ● どうすれば途上国の人も豊かな暮らしができるようになるのかについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● 各国(各班)ごとの準備物(先進国用・中進国用・開発途上国用)を入れた袋
2 時限目 「いただきます」を考えよう * 絵本「いのちをいただく」を読んで食べ物の大切さや「いただきます」の意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの食事について思い起こす。 ● 絵本「いのちをいただく」を読む。 ● 食事の役割や重要性について考える。 ● 一つの食材に多くの人や生き物の命が関わっていることについて考える。 ● 食材の多くを外国からの輸入に頼っていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵本「いただきます」 ● JICA 資料 小冊子「ぼくら地球調査隊」 ● 感想用用紙
3 時限目 ブラジルってどんな国? * 絵ブラジルについて知っていることを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ● チョコレートのパッケージを見て、ブラジルから日本に輸入している食べ物も多くあることを知る。 ● 教師海外研修について知る。 ● ブラジルについて知っていることやイメージについて交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● チョコレートのパッケージ ● 教師海外研修の案内パンフレット ● 感想用用紙
～ 教 師 海 外 研 修 ～		
4 時限目 ブラジル・モノ&フォトランゲージ * 地球の裏側のブラジルのことや私たち日本人との関わりについて関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルで撮ってきた写真や持ち帰った物について見比べながら考える。 ● それぞれの写真や物に関わる背景について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルで撮ってきた写真をラミネートしたもの(7枚) ● ブラジルから持ち帰った物(7つ) ● ワークシート
5 時限目 ブラジルの街や人々の様子 * ブラジルの街や人々の様子について知り、自分たちの住む日本の様子と同じところや違うところを見つけながら、未来の地球を支える自分たちにできることはないか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルの街並みや人々の様子に関する写真を見ながら、日本の様子と同じところや違うところを見つける。 ● 未来の地球を支える自分たちにできることを考える。 ● JICA について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● ワークシート
6 時限目 学芸会に向けて (学年全体に一斉授業) * ブラジルにおける環境問題を知り、学芸会で伝える環境問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境問題をテーマにした脚本(自作)をもとに学校のそばを流れる桂川の観察会やゴミゼロ活動における気付きを交流する。 ● ブラジルにおける環境問題について知る。 ● 自分たちが学芸会を通してすべきことは、たくさんの人たちにそれらの現状を知ってもらうために「伝えること」だと気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● 学芸会台本
～ 学 芸 会 ～		
7 時限目 学芸会を終えて * 学芸会で表現したことを通して自分たちが伝えたかったことを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちが学芸会前に書いた作文を読み返す。 ● 自分たちの演技を見る。 ● 現状を「知ること」、それを「伝えること」も「自分たちにできること」の一つであることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが学芸会前に書いた作文 ● 学芸会後の感想用作文用紙
8 時限目 JICA の活動 * JICA とその活動について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● JICA 国際協力推進員の森さんの紹介。 ● 世界の現状について知る。 ● その現状の中で存在する様々な課題に対して具体的な行動をしている JICA の活動について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲストティーチャー (JICA 京都デスク 国際協力推進員 森さん) ● パワーポイント
9 時限目 ブラジルの子どもたち * ブラジルの子どもたちと日本の子どもたちの「ちがい」や「同じところ」を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルの子どもたちの写真を見ながら、自分たちと違うところや同じところに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● ニュース記事(米国で黒人を白人警官が取り押さえる際に殺してしまったことに対して重い刑罰が与えられなかった) ● ワークシート
10 時限目 「夢をかなえるために」 * ブラジルの子どもたちが夢をかなえるためにわたしたちにできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの夢を思い浮かべ、それらを実現するために必要なことやものを考える。 ● ブラジルの子どもたちの夢を知る。 ● ブラジルの子どもたちがそれらの夢をかなえるために必要なことやものをグループで考える。 ● 未来の自分にできる(かもしれない)ことや今の自分にできることについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルの子どもたちに夢についてインタビューしたもの ● グループ活動の際のカード(画用紙) ● ワークシート

<p>11 時限目 日系人の活躍</p> <p>* 日系移民の歴史や日系人たちの活躍について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルで出会った日系の方々の写真を見ながらそれぞれのエピソードを知る。 ● 日系移民の歴史について知る。 ● 感じたことを交流する。 ● 今までの授業を通して、「わたしたちにもできること」をテーマに作文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● ワークシート ● 作文用紙
<p>12 時限目 わたしたちにもできること</p> <p>* 世界に目を向けた時、自分にもできそうなことはどのようなことがあるか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 全校の前で2月に行う「せせらぎタイム」(作文発表の場)に向けて、作文「わたしたちにもできること」の事前発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが書いた作文「わたしたちにもできること」 ● 感想用紙

3. 授業の詳細

1 時限目：貿易ゲームをしよう

ねらい…世界には色々な国があることを知り、それぞれのつながりについて考える。

◆内容◆

- ① かつては戦争などの争いで物を奪い合っていた国同士が「貿易」という手段で物のやり取りをし始めたことをふり返る。
- ② 貿易ゲームのルールを知る。
- ③ 先進国・中進国・開発途上国の立場に班分けし、それぞれの国に必要な準備物を用意して貿易ゲームを行う。
- ④ ゲームを進める中で、各国の立場によって不公平感や優越感を感じることに気付く。また世界は実際にそうした立場にある国々で成り立っていることを知る。
- ⑤ そんな時、自分たちの国はどのような対応をすべきか、どうすれば途上国の人々も豊かな暮らしができるようになるのかについて考える。



国同士が自国の利益を考えながら交渉

貿易ゲームのルール

- ・各国に仕事が与えられます。仕事はものづくりです。
- ・仕事の指示書が封筒に入っています。
- ・仕事の仕方は各国で考えてください。
- ・作った製品は「世界銀行」に買い取ってもらいます。
- ・ただし、不良品は買い取れません。

パワーポイントの一部

2 時限目：「いただきます」を考えよう

ねらい…絵本「いのちをいただく」を読んで食べ物大切さや「いただきます」の意味を考える。

◆内容◆

- ① 自分たちの給食や家での食事について、好き嫌いせずに残さずおいしくいただけているか思い起こす。
- ② 絵本「いのちをいただく」を読む。
- ③ 食事の役割や重要性について考える。
- ④ 一つの食材にどれだけの人や生き物の命が関わっているのかを考える。
- ⑤ 日常の中で口にしている食材の多くを外国からの輸入に頼っていることを知る。

3 時限目：ブラジルってどんな国？

ねらい…ブラジルについて知っていることを交流する。

◆内容◆

- ① チョコレートのパッケージを見て、ブラジルから日本に輸入している食べ物も多くあることを知る。
- ② 教師海外研修について知る。
- ③ ブラジルについて知っていることやそれぞれのイメージについて交流する。

児童の感想

- ▶ とても良く聞く国だけど、よく考えてみると実はあまり知らないことに気がきました。だから、先生に色々見てきてほしいです。

4 時限目：ブラジル・モノ&フォトランゲージ

ねらい…地球の裏側のブラジルのことや私たち日本人との関わりについて関心をもつ。

◆内容◆

- ① ブラジルで撮ってきた写真や持ち帰った物を使った問題について、実際に物を触ったり写真を見比べたりしながら考える。
- ② それぞれの写真や物に関わる背景について知る。

児童の感想

▶ 想像もつかない物があった。ブラジルにますます興味をもった。もっともっと知りたくなった。

総合「世界に目を向けよう」 ～ブラジル・モノ&フォトランゲージ～

6年 組()

◎ブラジルに関する「モノ&フォトランゲージ」を通して、地球の裏側のブラジルのことや、私たち日本人との関わりについて関心をもとう。

	「モノ」や「フォト」に関係のある説明 ()に当てはまる言葉を書こう。	「モノ(物)」 ア～キ	「フォト(写真)」 A～G
1	私は、ブラジルで最も愛されているスポーツ()に関する「モノ&フォト」です。		
2	私は、世界で最も広い川()川とそこに住む巨大魚()に関する「モノ&フォト」です。		
3	私は、日本の食卓でもよく使われる調味料()に関する「モノ&フォト」です。		
4	私は、日本で人気の栄養たっぷりスーパーフルーツ()に関する「モノ&フォト」です。		
5	私は、およそ100年前から、日本からブラジルに移住し始めた移民やその子孫の人たち()人の活躍に関する「モノ&フォト」です。		
6	私は、日本でもカフェなどでよく飲まれる飲み物()に関する「モノ&フォト」です。		
7	アマゾンの不毛地帯で、5の()人たちの努力によってアグロフォレストリー農法と呼ばれる農法を生み出されました。私は、その農法で作られ、日本でたくさんの人に食べられるもの()の原料に関する「モノ&フォト」です。		

◎今日の感想を書こう。

5 時限目：ブラジルの街や人々の様子

ねらい…ブラジルの街や人々の様子について知り、自分たちの住む日本の様子と同じところや違うところを見つけながら、未来の地球を支える自分たちにできることは何かを考えよう。

◆内容◆

- ① ブラジルの街並みや人々の様子に関する写真を見ながら、自分たちの住む日本の様子と同じところや違うところを見つける。
- ② 未来の地球を支える自分たちにできることは何かを考える。
- ③ 日本の国を代表して「自分たちにできること」を形にして活動しているのが JICA であることを知る。

6 時限目：学芸会に向けて（学年全体に一斉授業）

ねらい…ブラジルにおける環境問題を知り、学芸会で伝える環境問題について考える。

◆内容◆

- 環境問題とそれに対して自分たちにできることは何かをテーマの一つとした脚本（自作）をもとに学芸会の練習を始めるにあたり、学校のすぐそばを流れる桂川の観察会やゴミゼロ活動（校内・学校周りの清掃活動）における気付きを交流する。
- さらにブラジルで見つけた環境に関する問題点について知る。
- 自分たちが学芸会を通してすべきことは、たくさんの人たちにそれらの現状を知ってもらうために「伝えること」だと気付く。

児童の反応

▶ 学芸会では学んだことを伝えようと一所懸命だった。伝えることの大事さを実感していた。

7 時限目：学芸会を終えて

ねらい…学芸会で表現したことを通して自分たちが伝えなかったことを交流する。

◆内容◆

- ①自分たちが学芸会前に書いた作文を読み返して、伝えたいことは何だったのか振り返る。
- ②学芸会のビデオで自分たちの演技を見る。
- ③まずは現状を「知ること」、そしてそれをどんな形であっても「伝えること」、これも「自分たちにできること」の一つであることに気付く。

8 時限目：JICA の活動

ねらい…JICA とその活動について知る。

◆内容◆

- ①JICA 京都デスクよりゲストティーチャーに来ていただいた国際協力推進員の森さんの紹介。
- ②世界の現状について知る。
- ③その現状の中で存在する様々な課題に対して具体的な行動をしている JICA の活動を知る。

児童の感想

- ▶自分も将来 JICA に入って世界の人たちのためになることをしてみたいと思いました。

9 時限目：ブラジルの子どもたち

ねらい…ブラジルの子どもたちと日本の子どもたちの「ちがい」や「同じところ」を見つける。

◆内容◆

- ①ブラジルの子どもたちの写真を見ながら、自分たちと違うところや同じところを見つける。
- ②違うところは、髪や肌の色が違う子ども同士が同じ教室内で学習しているところであったり、同じところは、どの子どもも笑顔で楽しそうなおところや一生懸命学習しているところであったりすることに気付く。

児童の感想

- ▶みんな笑顔だったり一所懸命に勉強していたりしているのは、どこの国でも同じなんだと思いました。友だちになってみたいなと思いました。

10 時限目：夢をかなえるために

ねらい…ブラジルの子どもたちが夢をかなえるためにわたしたちにもできることを考える。

◆内容◆

- ①自分たちの夢を思い浮かべ、それらを実現するために必要なことやものを考える。
- ②ブラジルの子どもたちの夢を知る。
- ③ブラジルの子どもたちがそれらの夢をかなえるために必要なことやものをグループで考える。
- ④自分たちが夢をかなえるために必要なことやものは自分自身の内面的なもの以外は身近な場所でお金を使って手に入るのに対し、ブラジルでは手に入れることが困難なものもあることに気付く。つまりそれが原因で夢が実現困難な場合があることに気付く。
- ⑤未来の自分にできる(かもしれない)ことは何かを考える。
- ⑥今の自分に何かできることはないかを考える。

児童の感想

- ▶国は違っても僕たちと同じような夢を持った子どもたちがいることに驚きました。でもその夢がかなえられないかもしれない…。必要なものを持って行ってあげたい。理解を深めて自分たちにできることを行動に移していきたいです。そして一緒に夢をかなえてほしいです。ブラジルのことをもっと知って、できることを考えたいです。



ブラジルの子どもたちが夢をかなえるために必要なことやものを班で考えてカードに記入。

11 時限目：日系人の活躍

ねらい…日系移民の歴史や日系人たちの活躍について知る。

◆内容◆

- ① ブラジルで出会った日系の方々の写真を見ながらそれぞれのエピソードを知る。
- ② 日系移民の歴史について知る。
- ③ 感じたことを交流する。
- ④ 今までの授業を通して、「わたしたちにもできること」をテーマに作文を書く。

12 時限目：わたしたちにもできること

ねらい…世界に目を向けた時、自分にもできそうなことはどのようなことがあるか考える。

◆内容◆

- ① 全校の前で2月に行う「せせらぎタイム」（作文発表の場）に向けて、作文「わたしたちにもできること」の事前発表会をする。



世界に目を向けよう

4. 成果

何よりも子どもたちの世界の情勢に対する見方がどんどん変わってきていることに驚いている。自主勉強ノートに JICA についてまとめてきたり、ブラジルについて調べてきたり、毎日のニュースチェック欄には、世界に目を向けた内容がかなり増えていたり…。中には「将来は JICA に入る」とか「実際に行って自分の目で確かめてみたい」とか、地球の未来を担う者として頼もしいと感じるようになった子もいる。夏以前は外国のことには無関心・他人事でしかなかった子どもたちが、こうして世界に目を向けたものの見方ができるようになってきているのは、今回の研修に参加させていただいたからこそその成果だと感じている。

5. 課題

正しく知ることの大切さや世界に目を向けて考えていくことの必要性には気付けるようになってきた一方で、「相手のことを大切に思う気持ちは、身近なクラスの友だちを大切にすることから始まる」という姿勢がまだまだ不十分な子どもたちがいるのが指導者としては課題であると感じている。

ブラジルで感じた教育の重要さ。そこに携わる私たちの責任は大きい。他国で見てきたことや感じてきたことをただ押しつけるだけの実践ではなく、そこから子どもたち自らの思考によって自分たちの成長に繋げていく力、態度を養うことこそが教育であり、今回の研修の目指すべきところだと考えて進めてきた。そういった面では、まだまだ他にもアプローチの仕方を工夫していく必要があると感じている。

将来、彼らの新しい発想と自発的な行動により、より豊かな国が少しでも増えていくことを願いたい。そして、どんな人であっても互いの存在を尊重し合いながら、助け合っていこうとする子どもたちの育成を目指して、今後も様々な実践を続けていきたい。

参考資料 ・ 絵本「いのちをいただく」文：内田美智子 西日本新聞社
・ JICA 資料「ぼくら地球調査隊」小冊子 5 種